

はじめに

～開館20周年を迎えて～

横浜市中心図書館は、市民の生涯学習を支援する場として、また横浜市中心図書館の中核としての役割を担い、平成6年2月22日に一部開館いたしました。

そして4月の中央図書館の全面開館にあわせて、図書館情報システムが完成し、市中心図書館全館がネットワークでつながりました。このことにより、あたかもひとつの図書館のように、利用者用検索機で市中心図書館全館の本を調べることができるようになり、共通の図書館カードでどの市中心図書館でも本を借りられ、どの市中心図書館でも返せるようになりました。

パソコン、インターネットの普及に代表される社会の急速な変化によって、図書館のサービスも開館後の20年間で大きく変化しています。この展示では、横浜市中心図書館が開館した前後の図書館サービスの変遷を、パネルを通じてご紹介いたします。

横浜市中心図書館は社会情勢と環境の変化に対応し、市民の皆様の生活を支援してまいります。今後も、横浜市中心図書館をどうぞご利用ください。

平成26年2月 横浜市中心図書館

1 沿革

西暦	和暦	横浜市立図書館の出来事	中央図書館の出来事	「話題になった本」 図書館と読書に関する出来事
1919年	大正8年	12月 開港60年・自治制30周年記念事業として図書館の建設を計画		「恩讐の彼方に」菊池寛
1921年	大正10年	6月 横浜市図書館開業		「人肉の市」窪田十一ノ訳
1947年	昭和22年			「旋風二十年」森正蔵 11月 第一回読書週間(17日～23日)
1950年	昭和25年	4月 館外個人貸出開始、図書館法公布で閲覧料無料		「細雪」谷崎潤一郎 4月 「図書館法」制定
1960年	昭和35年	1月 貸出文庫用自動車、本格的に配本実施		「どくとるマンボウ航海記」北杜夫
1970年	昭和45年	8月 移動図書館「はまかぜ1号」「はまかぜ2号」巡回貸出開始		「誰のために愛するか」曾野綾子
1972年	昭和47年	10月 「横浜市図書館行政の施策と展望(意見具申)」(横浜市社会教育委員会議)が出される		「恍惚の人」有吉佐和子
1973年	昭和48年	11月 「横浜市総合計画1985」策定、方面別図書館建設の方針が出される		「日本沈没」小松左京
1974年	昭和49年	10月 磯子図書館開館、市立図書館2館となる。貸出方式にフォトチャージング式を採用		「かもめのジョナサン」リチャード・バック
1977年	昭和52年	4月 山内図書館開館、市立図書館3館となる。貸出方式に記名トークン式を採用		「ルーツ」アレックス・ヘイリー
1978年	昭和53年	11月 戸塚図書館開館、市立図書館4館となる。初めて貸出方式にコンピュータ式を採用		「和宮様御留」有吉佐和子
1980年	昭和55年	1月 鶴見図書館開館、市立図書館5館となる 5月 金沢図書館開館、市立図書館6館となる 8月 港北図書館開館、市立図書館7館となる		「項羽と劉邦」司馬遼太郎
1981年	昭和56年	4月 図書館間の連絡車が稼働開始 10月 横浜市立図書館創立60周年 12月 「よこはま21世紀プラン」策定、1区1館建設及び中央図書館建設方針を確立		「窓ぎわのトットちゃん」黒柳徹子
1982年	昭和57年	5月 保土ヶ谷図書館開館、市立図書館8館となる		「悪魔の飽食」森村誠一
1985年	昭和60年	1月 瀬谷図書館開館、市立図書館9館となる		「アイアコッカ」リー・アイアコッカ

西暦	和暦	横浜市立図書館の出来事	中央図書館の出来事	「話題になった本」 図書館と読書に関する出来事
1986年	昭和61年	5月 旭図書館開館、市立図書館10館となる	10月 「横浜市中心図書館基本構想委員会」設置	「化身」渡辺淳一
1987年	昭和62年	1月 港南図書館開館、市立図書館11館となる 1月 山内図書館、改修による移転 4月 地域図書館の開館時間を午後7時まで延長(土日を除いた平日) 10月 神奈川図書館開館、市立図書館12館となる 11月 「文化の日」開館開始		「サラダ記念日」俵万智
1988年	昭和63年	1月 山内図書館改修工事竣工		「ノルウェイの森」村上春樹
1989年	平成元年	2月 泉図書館開館、市立図書館13館となる 3月 栄図書館開館、市立図書館14館となる 5月 「こどもの日」開館開始 5月 中図書館開館、市立図書館15館となる 11月 「よこはま21世紀プラン」第3次実施計画により、中央図書館・分館を含めた図書サービスネットワーク確立の方針を打ち出す	3月 「横浜市中心図書館資料収集検討委員会報告書」が出される	「TUGUMI つぐみ」吉本ばなな(のちに「よしもとばなな」に改名)
1990年	平成2年		1月 中央図書館建設のため横浜市図書館休館 3月 横浜市図書館仮設館開館 9月 横浜市図書館を解体、中央図書館着工	「愛される理由」二谷友里恵
1991年	平成3年	4月 神奈川県図書館情報ネットワークシステム(KL-NET)に加入		「もものかんづめ」さくらももこ
1992年	平成4年	12月 南図書館開館、市立図書館16館となる		「明け方の夢」シドニィ・シェルダン
1993年	平成5年		10月 横浜市図書館仮設館の個人貸出・閲覧業務を停止	「マディソン郡の橋」ロバート・ジェームズ・ウォラー
1994年	平成6年	1月 横浜市立図書館情報システム運用開始 * 市立図書館の図書館カードが共通になり、貸出冊数が3冊から6冊に * 移動図書館での貸出方式をトークン式での貸出方式から横浜市立図書館情報システムに変更(移動図書館はポータブル端末によるバッチ処理)	2月 中央図書館一部開館 4月 中央図書館全面開館 4月 図書館情報システム全面稼動	「日本をダメにした九人の政治家」浜田幸一
1995年	平成7年	4月 都筑図書館開館、市立図書館17館となる 5月 緑図書館開館、市立図書館18館となり、1区1館を達成		「ソフィーの世界」ヨースタイン・ゴルデル
1996年	平成8年		1月 来館困難な障害者に対する配送貸出サービス開始	「脳内革命」春山茂雄

西暦	和暦	横浜市立図書館の出来事	中央図書館の出来事	「話題になった本」 図書館と読書に関する出来事
1997年	平成9年	3月 磯子図書館、移転再整備工事着手		「失樂園」渡辺淳一
1998年	平成10年	3月 図書館ホームページを開設し、インターネットによる蔵書検索サービス開始		「大河の一滴」五木寛之
1999年	平成11年	11月 磯子図書館、磯子区総合庁舎内に移転開館 11月 「予約図書情報ダイヤル」サービス開始	5月 「庁内情報拠点化事業」開始	「五体不満足」乙武洋匡
2000年	平成12年	4月 祝日開館等年間30日の開館日拡大	4月 火～金曜日(祝日除く)の開館時間を午後8時30分まで延長	「だから、あなたも生きぬいて」大平光代 子ども読書年
2001年	平成13年	12月 月曜開館を開始		「チーズはどこへ消えた？」スペンサー・ジョンソン 12月 「子どもの読書活動の推進に関する法律」施行
2002年	平成14年	12月 「横浜市中期政策プラン」策定、地区センターとの連携・図書館情報システムの改善を計画		「声に出して読みたい日本語」齋藤孝 8月 「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」策定
2003年	平成15年	1月 図書館情報システムを更新		「バカの壁」養老孟司
2004年	平成16年		5月 Eメールレファレンスサービス開始	「世界の中心で、愛をさけぶ」片山恭一 1月 「神奈川県子ども読書活動推進計画(第一次)」策定
2005年	平成17年	1月 登録更新手続を開始 10月 インターネットでの予約サービス・貸出延長サービス開始 12月 「地区センター等ネットワーク試行調査事業」開始	4月 ホームページに「Yokohama's Memory《都市横浜の記憶》」を公開	「さおだけ屋はなぜ潰れないのか？」山田真哉 7月 「文字・活字文化振興法」策定
2006年	平成18年	12月 戸塚図書館再整備工事のため休館	2月 インターネット閲覧サービスを開始 12月 「医療情報コーナー」開設	「国家の品格」藤原正彦 3月 「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第二次)」策定 3月 「横浜市子ども読書活動推進計画(第一次)」策定
2007年	平成19年	1月 旭・金沢・緑・都筑・栄図書館でインターネット閲覧サービス開始 2月 全館に「初めて出会う絵本コーナー」開設 10月 全館で「ティーンズサービス」開始 7月 戸塚図書館再開館	2月 「外国語本コーナー」開設 3月 「ビジネス情報コーナー」改装	「ホームレス中学生」田村裕

西暦	和暦	横浜市立図書館の出来事	中央図書館の出来事	「話題になった本」 図書館と読書に関する出来事
2008年	平成20年	10月 保土ヶ谷図書館耐震補強工事のため休館	12月 「法情報コーナー」開設	「夢をかなえるゾウ」水野敬也 3月 「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第二次)」策定 6月 「図書館法」改正 7月 「教育振興基本計画」策定
2009年	平成21年	3月 全館でインターネット閲覧サービスを開始 3月 保土ヶ谷図書館再開館 10月 開港150周年にあたって小学生から募集した「ヨコハマの子どもが選んだ150冊」発表 10月 金沢図書館再整備工事のため休館		「1Q84 BOOK1(4-6月)、BOOK2(7-9月)」村上春樹 7月 「神奈川県子ども読書活動推進計画(第二次)」策定
2010年	平成22年	4月 金沢図書館再開館 4月 山内図書館で指定管理者による運営を開始、あわせて平日火～金曜日の開館時間を午後8時30分まで延長 7月 国民読書年事業として「ヨコハマ、本の虫宣言～2010年は国民読書年」を開催 9月 「横浜市立図書館司書人材育成計画」策定	4月 中央図書館司書補助業務委託、及び書誌作成業務委託導入	「もし高校野球のマネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」岩崎夏海
2011年	平成23年	1月 「横浜市立図書館アクションプラン」策定 3月 「蔵書再構成5か年計画」策定 3月 「横浜市立図書館児童サービス5か年計画」策定 4月 都筑図書館、戸塚図書館等司書補助業務委託導入 4月 簡易版蔵書検索システム開始 4月 横浜市立図書館メールマガジンの配信を開始 6月 横浜市立図書館創立90周年 7月 節電のため、中央図書館を除く地域図書館で、平日週1日輪番による休館を実施(9月まで) 9月 「レファレンスサービス向上プログラム」策定		「謎解きはディナーのあとで」東川篤哉 1月 「横浜市教育振興基本計画」策定 3月 「横浜市子ども読書活動推進計画(第二次)」策定
2012年	平成24年	11月 「蔵書再構成5か年計画」中間振り返りを実施		「聞く力」阿川佐和子
2013年	平成25年	1月 図書館情報システムを更新 1月 「横浜市地域情報ポータル」サイト開設 8月 港北図書館耐震工事等のため休館 11月 「横浜市立図書館アクションプラン」中間振り返りを実施		「色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年」村上春樹 5月 「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第三次)」策定 5月 「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」可決
2014年	平成26年		2月 横浜市中心中央図書館開館 20周年	

2 中央図書館のあゆみ

横浜市中央図書館のあゆみ① ～ “野毛の図書館” の誕生まで～

市民のみなさまに“野毛の図書館”として親しまれた、
横浜市図書館(現中央図書館の前身)誕生までを振り返ります。

横浜市立図書館の歴史は、実は中央図書館が建つ野毛ではなく横浜公園の一角から始まりました。大正8年に開港60周年・自治制施行30周年記念事業として横浜公園内に建設が計画され、大正10(1921)年6月に仮閲覧所が開設されました。これが横浜市立図書館の創立です。残念ながら写真は残っていません。

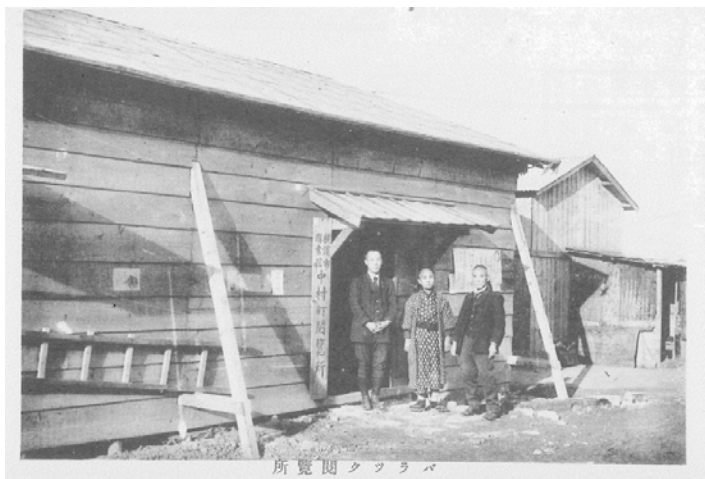
当時の図書館は有料で、館内閲覧料は1回2銭、館外閲覧料は1か月50銭でした。館外閲覧には他に保証金5円も必要でした。ちなみに当時の映画館の入場料は30銭ほどだったようです。

この仮閲覧所は館内が狭かったため館外貸出に努めましたが、館内閲覧を希望する人が多く、毎日入館を断らざるを得ない状況だったと、当時の業務日誌が伝えています。

年月	事項
1919(大正8)年12月	開港60周年・自治制施行30周年記念事業として図書館の建設を計画
1921(大正10)年6月	横浜公園内の建築事務所内仮閲覧所で図書の閲覧開始(横浜市立図書館の創立)
1923(大正12)年9月	関東大震災により建物と蔵書を焼失
12月	中村町に仮閲覧所を設置し、閲覧開始
1924(大正13)年3月	横浜公園内に仮本館が竣工し、落成記念に震災展覧会を開催
4月	閲覧業務を開始
9月	館外貸出を実施
1927(昭和2)年7月	旧老松小学校跡に横浜市図書館竣工

しかし大正12(1923)年9月、関東大震災で仮閲覧所の建物・施設をはじめ、蔵書約13,000冊を焼失してしまいました。震災後再び活動を開始しますが、図書の入手には非常に困難を極めました。佐賀県立・大阪市立図書館などを始めとした各地からの寄贈図書や県下及び市内の篤志家からの寄贈図書に購入図書を加えて、中村町の仮閲覧所で閲覧を開始したのは震災から3か月後のことでした。

その後、2度の移転をし、ようやく昭和2(1927)年7月、野毛の地に横浜市図書館(現中央図書館の前身)が竣工したのです。



中村町仮閲覧所 関東大震災から3か月後
大正12(1923)年



横浜市図書館(現中央図書館の前身)竣工
昭和2(1927)年

横浜市中心図書館のあゆみ② ～市立図書館の歴史とこれから～



↑ 移動図書館「はまかぜ号」の巡回が始まった当初の頃はまかぜ号の本棚に集まる人たち（年代不明）

■野毛図書館1館の時代

昭和2(1927)年に横浜市図書館(通称“野毛の図書館”、現中央図書館)が開館した後、市内に図書館が1館の時代が長く続きました。

そんな中、昭和29(1954)年に10人以上の地域や職場のグループを対象とした団体貸出を開始し、昭和45(1970)年には、移動図書館はまかぜ号が市内の団地などの駐車場26か所の巡回を開始し、多くの利用者で賑わいました。

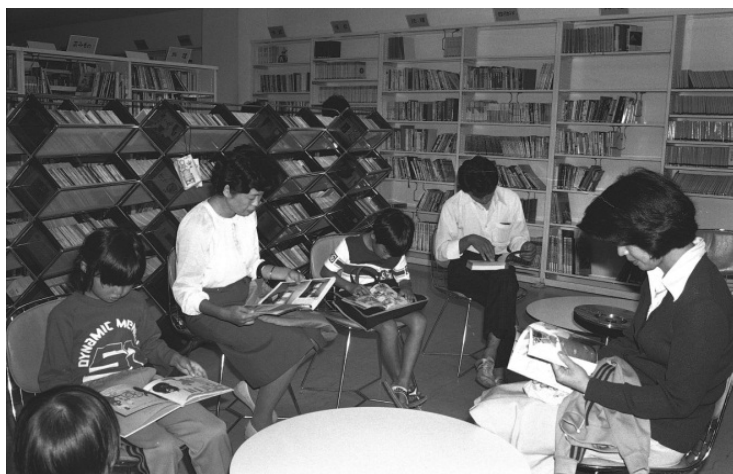
■地域図書館の整備

昭和49(1974)年、市内に2番目の図書館として磯子図書館が開館。その後、1区1館ずつ図書館の建設が続けられました。

■中央図書館建設計画

昭和61(1986)年、「横浜市中央図書館基本構想委員会」が設置され、中央図書館の建設が具体化しました。

平成2(1990)年1月横浜市図書館は休館し、9月に解体され、中央図書館の建設に着手しました。



↑ 磯子図書館の様子 昭和53(1978)年
資料提供: 横浜市史資料室

■中央図書館の開館

平成6(1994)年に中央図書館が開館し、市立図書館全館が図書館情報システムでつながりました。

■1区1館の達成

平成7(1995)年の都筑・緑図書館の開館で1区1館を達成し、現在の18館となりました。

※磯子図書館はその後平成11(1999)年、磯子区役所総合庁舎地下1階に移転しました。

■市立図書館のこれから

そして今、市立図書館では、図書館サービスを取り巻く環境変化や新たな課題に対応するため、次の各プランを策定し取り組んでいます。

※各プランの内容については市立図書館ホームページ
(<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/library/unei/>)

でご覧いただけます。

- ・「横浜市立図書館司書人材育成計画」

平成22(2010)年9月策定

- ・「横浜市立図書館アクションプラン」

平成23(2011)年1月策定

- ・「蔵書再構成5か年計画」

平成23(2011)年3月策定

- ・「横浜市立図書館児童サービス5か年計画」

平成23(2011)年3月策定



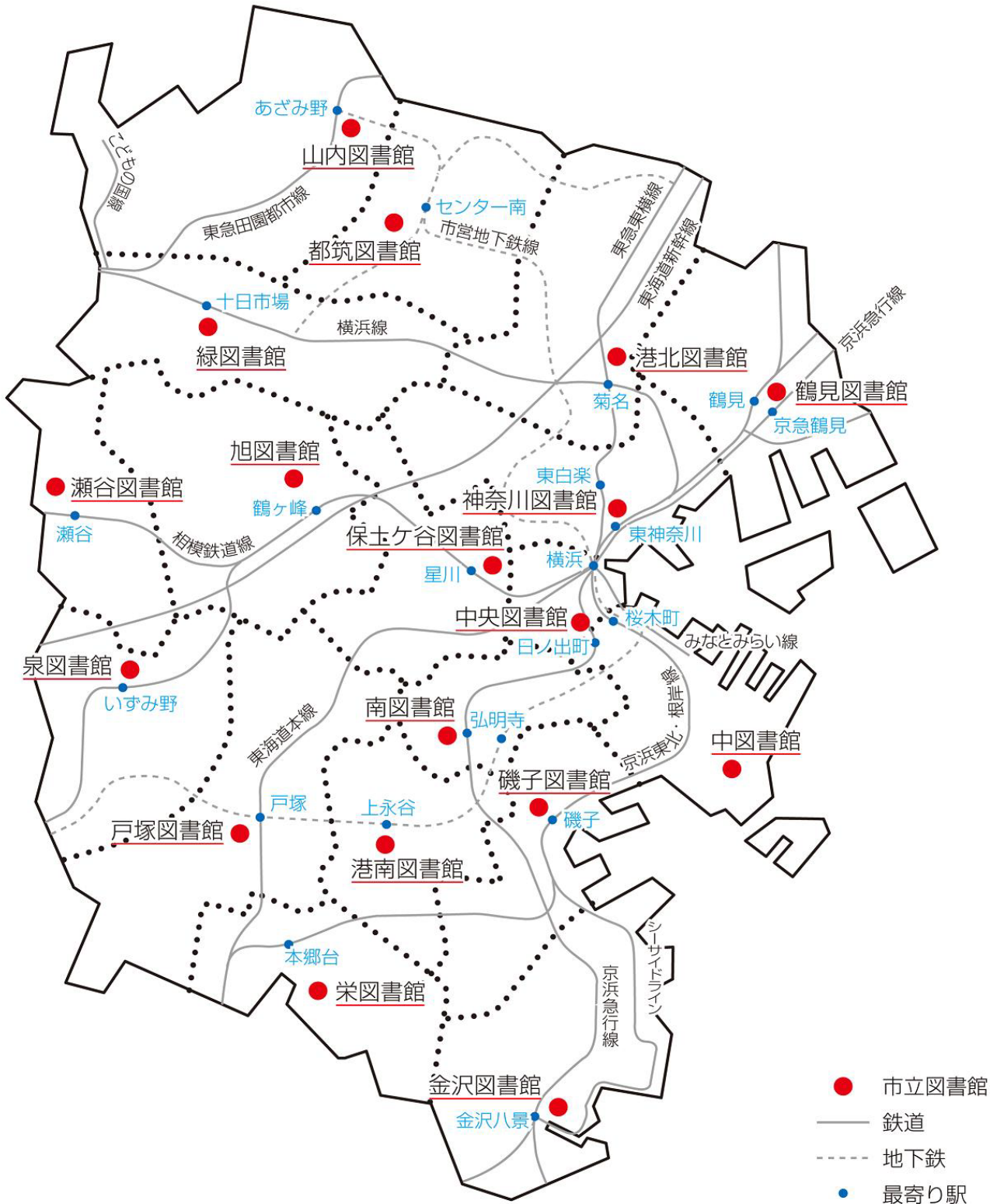
↑ 現在の中央図書館

3 市立図書館一覽

横浜市立図書館一覧

横浜市立図書館は1区に1館ずつ、計18館あります。図書館から遠い地域については、移動図書館「はまかぜ号」が巡回して、本をお届けしています。

横浜市立図書館18館と移動図書館「はまかぜ号」は、図書館情報システムによってオンラインでつながっています。



移動図書館「はまかぜ号」

移動図書館事業について

移動図書館事業は、昭和 45（1970）年に開始した事業です。当時、横浜市には図書館が1館しかなく、市内全域へ図書館サービスを提供する第一歩として始まりました。現在、横浜市には18の市立図書館がありますが、主に市立図書館から遠い地域を対象に、市内21か所を巡回しています。また、平成21（2009）年4月から、市民と協力して現地の運営を行う巡回ステーションを新設しました。平成22（2010）年度からは、ビジネス支援としてみなとみらいへの巡回を開始しました。

■ 移動図書館車ってどんなもの？

マイクロバスやトラック等を改造し、内外に本棚を取り付けた特別仕様車です。
中央図書館隣接の駐車場から出発します。

■ 巡回ステーション 21か所

巡回ステーションは、市立図書館や図書施設などへの利便性、利用の見込み、安全が確保できる場所などを検討して決めています。

■ 巡回間隔

2週間

■ 駐車時間

30分から1時間40分

■ 貸出冊数

100冊から1,000冊（／1時間）

■ 積載資料数

約3,500冊（車体外側・内側に書架を設置）

■ 乗車人数

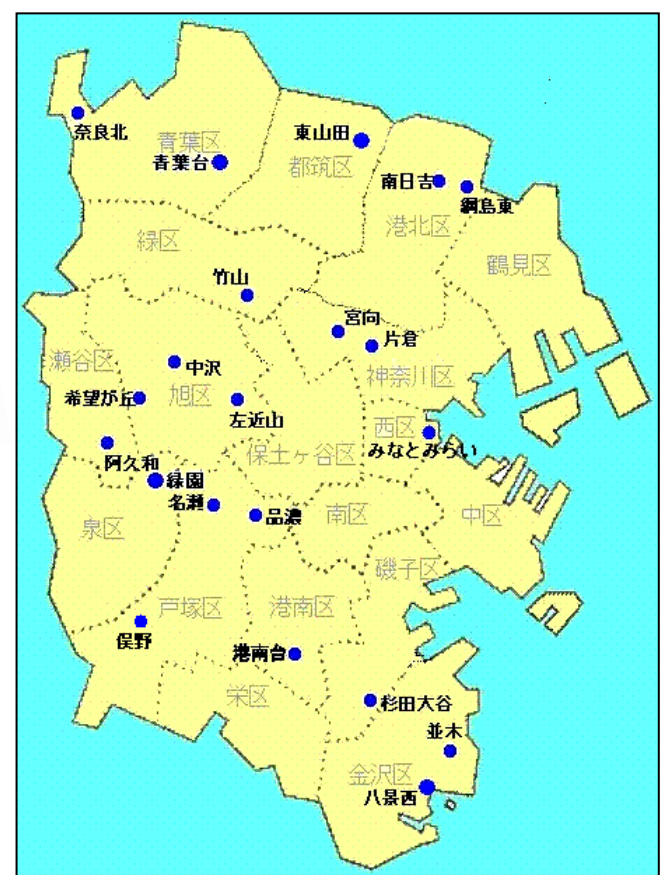
定員6名



移動図書館「はまかぜ号」の外扉を開けた様子



「はまかぜ号」マスコットキャラクターの「うみ」です

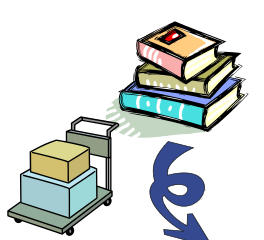


平成25年度 巡回ステーションマップ

■ 「はまかぜ号」の一日

出発前

「はまかぜ号」に、巡回先で貸し出す本や予約本、使用する機器などを積み込みます。「はまかぜ号」の車庫は中央図書館にあり、そこから出発します。



いってきます！

巡回先へ移動

巡回ステーション

巡回先では、車体外側の本棚を開き、絵本や紙芝居はシートの上に広げます。貸出・返却、図書館カードの発行や予約の受付などをします。



帰館後

次の巡回に向けて、本が借りられて隙間のできた本棚に本を積み込みます。

中央図書館へ移動



ただいま！

移動図書館はまかぜ号 巡回場所の変遷



年 区	昭和(年度)													平成(年度)																														
	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
鶴見	＜鶴見図書館開館＞																																											
神奈川	六角橋																																											
														片倉																														
														宮向													西菅田																	
西	＜神奈川図書館開館＞																																											
中	＜中央図書館開館＞																																											
														本牧													＜中図書館開館＞																	
南														北方																														
	大岡													大岡(統合)																														
	藤ノ木													別所													＜南図書館開館＞																	
														六ッ川													中村																	
港南	日野													＜港南図書館開館＞													港南台																	
保土ヶ谷	瀬戸ヶ谷													常盤会													＜保土ヶ谷図書館開館＞																	
	日本鋼管													日鋼住友(統合)													川島																	
	住友													笹山																														
														東希望が丘													◇希望が丘																	
旭	ひかりが丘①													統合													＜旭図書館開館＞																	
	ひかりが丘②													白根													中沢																	
														左近山																														
磯子	＜磯子図書館開館＞													磯子第3													東芝第一																	
														三井杉田													杉田大谷																	
														谷津坂西部													泥亀																	
金沢	泥亀													＜金沢図書館開館＞													並木																	
港北														高田													八景西																	
														南日吉													網島東																	
青葉	青葉台日本合成ゴム													元石川①													＜山内図書館開館＞																	
	元石川②													青葉台マンション													鴨志田																	
														奈良北													青葉台																	
														市ヶ尾													竹山																	
緑	霧が丘													＜緑図書館開館＞													川和																	
都筑	川和													荏田													＜都筑図書館開館＞																	
														荏田													東山田																	
戸塚	アザリエ													戸塚													＜戸塚図書館開館＞																	
	原宿													舞岡													柏尾																	
														小系													◇品濃																	
														名瀬													俣野																	
栄	上郷													桂台													＜栄図書館開館＞																	
泉														＜泉図書館開館＞													緑園																	
瀬谷	阿久和													明和													三ツ境																	
														三ツ境													＜瀬谷図書館開館＞																	
計	27	27	25	25	25	25	25	27	26	22	24	22	26	22	22	22	22	24	25	25	25	25	28	25	25	26	23	23	24	24	23	22	22	22	22	25	19	19	19	19	21	21	21	21

◇名称変更

4 オンライン導入前後

オンライン導入前【検索・予約】

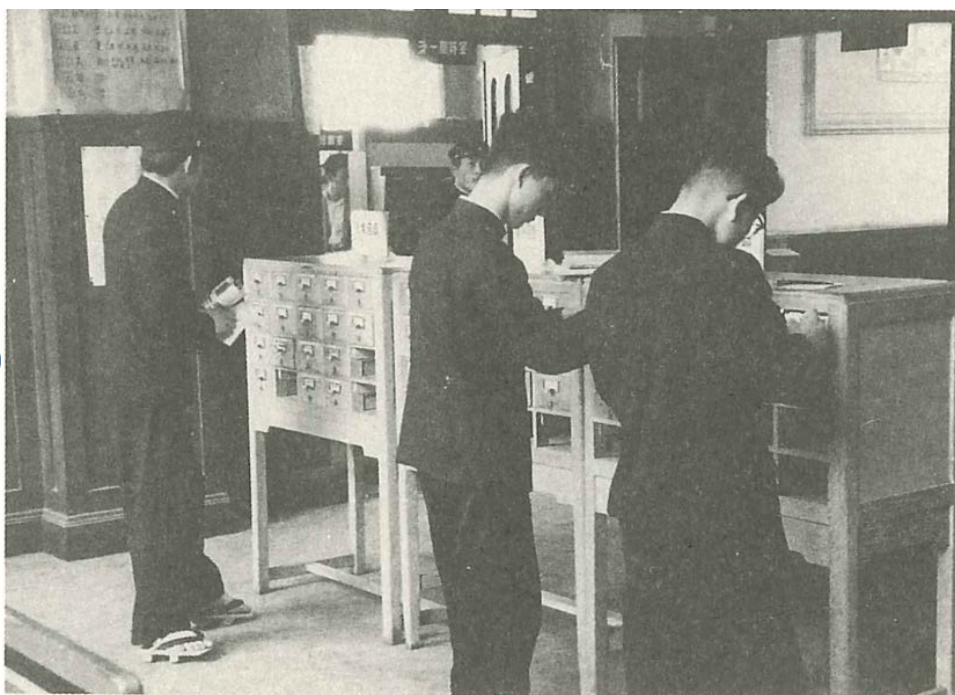
中央図書館が開館したことで、横浜市立図書館全館がネットワークでつながりました。中央図書館のホストコンピュータが、横浜市立図書館全館にある本の「書誌」(本のタイトルや著者名、出版社、内容など)と動態情報(1冊1冊の本が、貸出中かどうかといった情報)を管理するようになりました。ではネットワークでつながる前の図書館はどうだったのでしょうか？

その1 本を探すとき

【以前】 図書館に来て、目録カードを利用して探しました。

目録カードは、書名、著者名などの50音順に並んでいたのですが、それらがわからないと、本を探せませんでした。

引き出しの中には目録カードがぎっしり入っています。一枚一枚カードをめくって本を探しました。



■ 目録室(『横浜の本と文化』より)



■ 目録カード(『図書館報「こだま」no.55』より)

その2 本が図書館にあったとき

【以前】 目録カードがみつきり、探している本がその図書館にあるとわかって、あるはずの本棚になかった場合、その本が貸出中なのか、図書館の中で見ている人がいるのか分かりませんでした。

その3 本を予約したとき

【以前】 本が返却されたときに、職員が予約が入っているかどうか目視でチェックしていました。

その4 他の図書館の本を探すとき

【以前】 市立図書館全館の総合目録がなかったので、職員さえ他の図書館の所蔵情報が分かりませんでした。利用の希望があると、電話やFAXで他の図書館に問い合わせをして、それぞれの図書館の職員が、目録カードや台帳をチェックして本を探しました。

連絡車が運行する前は、職員がリュックを担いで各図書館を回って本を運んでいました。本を取り寄せるまでに、時間がかかりました。



目録は図書館の目次です

まだ図書館を使い慣れないAさん、何か本を捜してうろうろしています。そこへ通りかかったのは図書館の常連であるB氏……

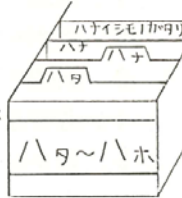
B 何を捜しているのかね。

A 芥川龍之介の「鼻」が読みたいのだけれど捜し方がわからなくて。

B まず目録カードをひいてみるといい。図書館の目次のようなもので、何があるか、それがどこにあるかが一目でわかるんだ。

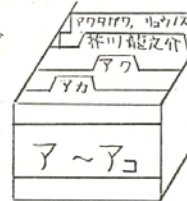
目録コーナーはカウンターの右手です。書名・著者・分類の3種類（児童書は書名・分類の2種類）の目録があり、目的によって使い分けます。カードは、その上部にカタカナで表示された標目（書名、著者名などの読み）の50音順に並んでいます。

A じゃあ書名目録でハナを捜せばいいのね。あら、花はあるけれど鼻というカードはないわ。この図書館にはないのかしら。



B そんなはずはない。念のため著者目録を見てみよう。芥川の本がどの位あるかわかるよ。

著者カードの標目は「アクタガワ、リュウノスケ」のように、「姓、名」の形になっています。



A あら、何十枚もあるわ。

B 芥川の本はこの枚数分あるわけだ。同じ著者のカードは書名順に並んでいるから、一枚ずついいねいに捜してみよう。

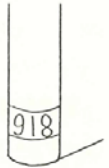
918	アワガワ, リュウノスケ	41013868	①
④書名	新編 日本文学 10 新潮社 昭和53 569 p 内容: 芥川龍之介集: 老牛, 羅生門, 鼻 [ほか]		
ア	アワガワ, リュウノスケ	41028457	②
④文庫本コーナー	羅生門・鼻・芋粥・偷盗 芥川竜之介 岩波書店 1979 173 p (岩波文庫 緑70=1)		○

この他、芥川龍之介全集、現代日本文学大系、新潮文庫などに「鼻」が入っていました。

A なるほど。「鼻」という書名の本はないけれど、全集に入っていたり、他の作品と一緒にあったり……捜せばちゃんとあるのね。これで本が図書館にあることはわかったけれど、どこにあるのかしら。カードの左右に番号が付いているけれど、何か関係ありそうね。

B そう、左上にあるのが分類記号、これと「〇〇コーナー」の印が本を捜す鍵になる。右上のは図書ナンバーで、予約の時に役に立つんだ。

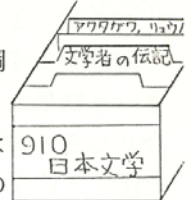
図書館の本は内容によって分類され、一冊ずつに、ある記号がついています。本は、この番号順に並んでいるので、カードの分類記号を覚え、書架の表示を見ながら捜して下さい。さて、カード例①の本は918の棚にありますが、②の本は文庫本コーナーに別置されています。コーナーの中は、岩波文庫、新潮文庫などの叢書ごとに、分類順に並んでいます。②の分類アは芥川のアです。日本の小説は著者名の頭文字が分類記号となり、000～900の本とは別に、アイウエオ順に並んでいます。



A これだけ捜したら、芥川についての研究書も読みたくなったわ。

B 今度は「芥川について」という内容で捜すわけだから、分類目録だね。

目録コーナー壁面の「分類主綱表」でおおよその分類がわかります。さて910のひきだしには「文学者の伝記・作家研究」の見出しがあり、被伝者名が標目となっています。



910	アワガワ, リュウノスケ	41015312	④被伝者
	追想 芥川龍之介 芥川文述 中野妙子 記 筑摩書房 昭和50 245 p		○

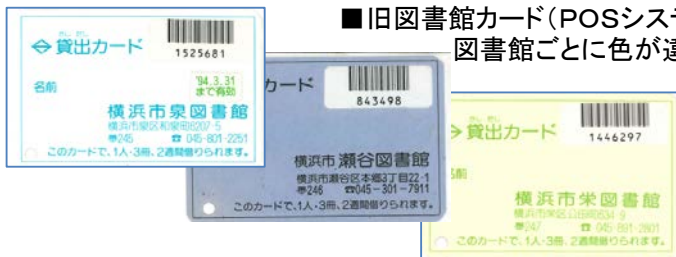
A ありがとう。これで私も図書館通ね!

オンライン導入前後【貸出】

中央図書館が開館し市立図書館全館がネットワークでつながったことで、貸出の方法も変わりました。オンライン導入前と導入後の貸出方法の変化をご紹介します。

1 図書館カード

【以前】 図書館カードは共通ではなく、各市立図書館ごとにカードを登録する必要がありました。貸出冊数は1人3冊、2週間でした。



■旧図書館カード(POSシステムの時のもの)
図書館ごとに色が違いました。

【今】 図書館カードも貸出方式も市立図書館全館共通です。どの市立図書館本を借りられ、どの市立図書館でも返すことができます。1人6冊、2週間借りられます。



2 貸出方式【以前】

図書館情報システムで全館がつながるまでは、次のような貸出方式を使用していました。

●トークン式

移動図書館「はまかせ号」で、中央図書館が開館するまで用いられていた方式です。カードを登録すると図書館カードとプラスチック製の札(トークン)を一人3枚渡されました。本を借りるときには、借りる本の冊数だけトークンを図書館に渡し、返却の時には返した本の数だけトークンを受け取ることができました。

非常に簡便な方法でしたが、誰がどの本を借りているのかまったく分かりませんでした。



■トークン

オンライン化前に「はまかせ号」で使用されていました。黄色と青のトークンを1年おきに交換して使っていました。

●フォトチャージングシステム

昭和49(1974)年に磯子図書館が開館するときに、館外貸出の飛躍的な増加を予想して、神奈川県下ではじめて導入されたシステムです。カメラで撮影して、マイクロフィルムに図書館カードと、書名、日付、通し番号を写し取り、図書貸出記録としていました。フィルム1巻分の撮影が終わると現像に出しました。現像したフィルムはフィルムリーダーで読み取っていました。

●記名トークン式

利用名が書かれたトークンを、借りる本の冊数だけ図書館に渡す方法です。図書館は、その記名トークンを返却日ごとに名前順の50音順に並べていました。返却のときには、図書館職員が本の返却日ごとに記名トークンを探し、利用者に返していました。保管場所が必要になることや、処理に時間がかかるなどの問題がありました。山内図書館(昭和52(1977)年に開館)で用いられていました。

●POS(Point of Sales)システム

昭和53(1978)年に戸塚図書館で導入された、横浜市立図書館初のコンピュータによる貸出システムです。図書館カードと本に付与されたバーコードを、図書館に設置された端末のバーコードリーダーを使って、カセットテープに貸出日とともに記録しました。そのテープを週に一度、コンピュータで一括処理していました。当時のコンピュータで扱えるのはカタカナと英数字だけだったため、書名や著者名の入力はいませんでした。磯子図書館と山内図書館も昭和55(1980)年に、貸出方式をPOSシステムに転換しました。



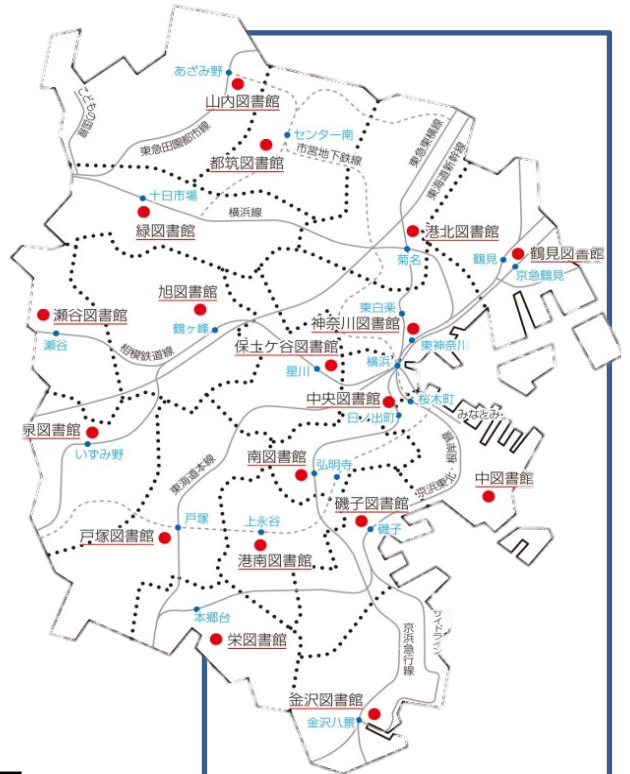
■POSシステム端末
(『みんなのひろばno.19』より
(山内図書館報 昭和56(1981)年刊)

横浜市立図書館情報システム

平成6年に中央図書館が開館し、オンライン化達成！
 市立図書館全18館の蔵書379万冊が一目瞭然！
 今、その本が貸出中かどうかもわかります

現在の図書館情報システムは、中央図書館にあるホストコンピュータが管理しています。市立図書館全18館にある379万冊以上の資料の「書誌」(資料のタイトルや著者名、出版社、内容など)と動態情報(1冊1冊の資料が、貸出中かどうかといった情報)を管理し、リアルタイムで図書館内の利用者用検索機やインターネット上の「横浜市立図書館蔵書検索ページ」に情報を提供しています。

この図書館情報システムを通じて、インターネットで資料を検索し、予約の入力を行うことができます。予約の情報は、システムを通じて資料を所蔵している館に送られます。予約した資料が用意できると、メールなどでご連絡をいたします。



■ 情報と本の流れ (検索・予約をしたとき)

インターネット 横浜市立図書館蔵書検索ページ
 中央図書館 ホストコンピューター



検索・予約



データの提供・管理

各市立図書館
 (予約資料を所蔵している館)
 資料を所蔵している館の端末に予約が入っている本の情報が届きます。

- ・予約が入っている資料を本棚から探して受取館に送ります。
- ・貸出中の資料が返却された場合には、予約が入っていることを端末が知らせてくれます。



受取館に資料が到着すると、ログイン時またはメールでお知らせします。



市立図書館
 (予約資料を受け取る館)
 「連絡車」による各図書館間での資料配送



↑ 中央図書館

← 移動図書館「はまかぜ号」
 ※「はまかぜ号」の各ステーションでも予約の資料を受け取ることができます。



■ 中央図書館書庫 (120万冊収容可能)

物流システム

図書館から図書館へ、本を運ぶ「連絡車」

本の「情報」は、各図書館へ「横浜市立図書館情報システム」が届けます。

一方、図書館から図書館へ「本」を届ける「物流システム」を担うのは、本を載せて走る「連絡車」です。予約が入った本を取り寄せるのも、他の図書館に返却された本を元の図書館に戻すのも、この車の役目です。

各区の図書館から本はいったん中央図書館に集められ、その後中央図書館から各区の図書館へと、一日一往復、ふだんは5コースに分かれて本を運びます。

中央図書館の配送室では、全館から送られてきた本の仕分け・発送を、日曜・祝休日、年末年始を除く毎日行っています。



← ■ 配送室（中央図書館）

全館から本を入れたコンテナが届きます。

※コンテナ一つに、本は単行本だと40冊程度入ります。



【連絡車の一日】

<午前中>

- ①各コースの市立図書館を回り、本を入れたコンテナを集めます。
- ②中央図書館に到着。コンテナを降ろします。
- ③図書館ごとにコンテナをまとめて積み込みます。

<午後>

午前のコースを逆にたどり、市立図書館へコンテナを届けます。



↑ ■ 連絡車

2トントラック5台が、ほぼ毎日市内を巡回しています。

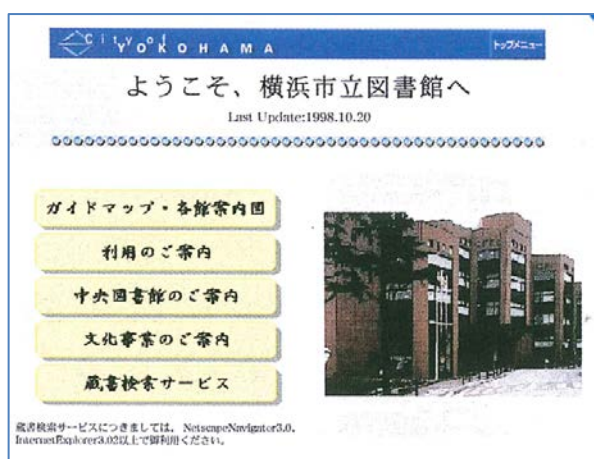
5 蔵書検索サービスと インターネット関連サービス

インターネットによる蔵書検索サービスの変遷

平成10年に市立図書館ホームページを開設 インターネットによる蔵書検索サービス開始！

横浜市立図書館全館が平成6(1990)年に図書館情報システムでつながった後、インターネットが急速に普及しました。これは、翌平成7(1991)年に発生した阪神淡路大震災で、安否確認にインターネットが用いられ、その有効性が示されたこと、また同年11月にWindows95が発売されたことなどが要因として挙げられます。

こうした社会の動きをうけて、横浜市立図書館でも、平成10(1998)年3月に、図書館のホームページを開設しました。あわせて市立図書館の蔵書検索システムを構築し、全18館が所蔵する資料の情報を、インターネットを通じて、いつでもどこからでも検索できるようになりました。



平成10(1998)年3月

「図書館ホームページ」を開設し、インターネットによる蔵書検索サービス開始

※当初、蔵書データの更新作業は、週1回でした

← ■ 開設当時のHPのトップメニュー

※当初は利用案内、所在地、休館日など10ページ程度の内容からスタートしました

平成15(2003)年1月

「横浜市立図書館情報システム」を更新 → → →

- ・インターネット蔵書検索システムで、資料が貸出中かどうかといった動態情報を提供できるようになりました。
- ・掛け合わせや絞り込み検索、AND検索など検索条件を指定できるようになりました。
- ・目次や本の内容の情報も検索の対象にできるようになりました。



平成17(2005)年10月

インターネットでの「予約」サービス開始

- ・図書館カード番号と、事前に登録したパスワードを入力することで予約申込ができるようになりました。

平成20(2008)年7月

インターネットでの雑誌の「予約」サービス開始



平成23(2011)年4月

「簡易版蔵書検索システム」開始

- ・携帯電話からも検索、予約ができるようになりました。



平成25(2013)年1月

「図書館情報システム」を更新

- ・画面レイアウトの変更に加え、「予約かご」「順番指定予約」「仮登録申請」などのサービスが利用できるようになりました。

← 「横浜市地域情報ポータル」サイト開設

- ・横浜市立図書館だけでなく、各機関が所蔵する資料を横断検索できるようになりました。

【参考】市立図書館インターネット関連サービス 年表

平成10(1998)年

市立図書館ホームページを開設。インターネットによる蔵書検索開始

平成11(1999)年

ホームページで「Yokohama's Memory」で取り上げた浮世絵の紹介を開始
 ※横浜市立図書館が都市横浜の記憶装置として所蔵資料のPRを目的に展開している事業。「①ホームページでの公開」「②絵葉書の発行」「③展示会の開催」の3つのメニューからなる



市立図書館ホームページ「Yokohama's Memory」より
 【横浜野毛伊勢山從海岸鉄道蒸気車ノ図】

平成12(2000)年

ホームページに図書館刊行物や統計情報を追加し
 およそ100ページとなる

市立図書館15館で「IT講習」を実施 →
 ※「IT講習」: 国のIT革命の飛躍的推進のための施策に基づく
 交付金の交付を受け全国の自治体で実施された。
 ※定員の3倍を超える応募があり、市立図書館全体で
 約6千人が受講。



平成16(2004)年

中央図書館では初めての試みとして、市民の総合的な情報探索能力支援
 を目的に、「インターネットと図書資料を駆使した調べ方のコツ」と題した連続講座(3回)を開催

市立図書館ホームページへのアクセス件数が、開設時の約10倍になる

《都市横浜の記憶》と題して、図書館所蔵の横浜の歴史と文化に関する資料をデジタル化して、ホームページに公開

平成18(2006)年

中央図書館に公共情報端末の設置の試行
 (インターネット閲覧用パソコン設置)

全館のホームページを開設

平成21(2009)年

市立図書館全館で、インターネット閲覧サービス開始

← 平成23(2011)年

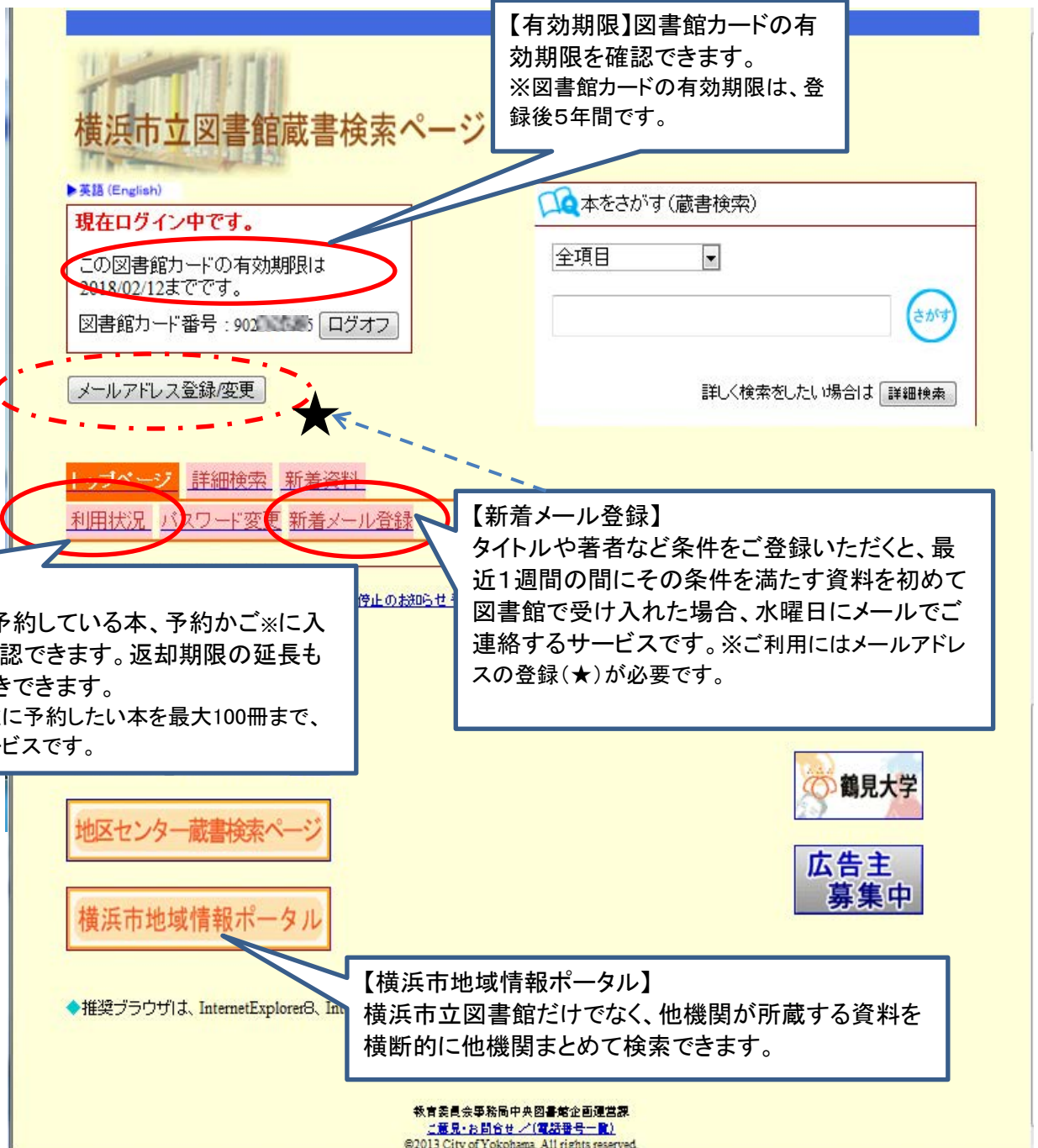
市立図書館メールマガジンの配信を開始

蔵書検索ページでこんなことができます

平成25(2013)年1月に市立図書館情報システムが新しくなりました。現在、インターネットの蔵書検索ページで提供しているサービスの一部をご紹介します。

■横浜市立図書館蔵書検索ページ(ログイン※後画面)

※ログインには図書館カード番号と事前に登録したパスワードが必要です。



【有効期限】図書館カードの有効期限を確認できます。
※図書館カードの有効期限は、登録後5年間です。

現在ログイン中です。
この図書館カードの有効期限は2018/02/12までです。
図書館カード番号 : 902XXXXXX ログオフ

メールアドレス登録/変更

本をさがす(蔵書検索)

全項目

さがす

詳しく検索したい場合は 詳細検索

トップページ 詳細検索 新着資料
利用状況 パスワード変更 新着メール登録

【利用状況】
借りている本、予約している本、予約かご※に入れている本を確認できます。返却期限の延長もこちらから手続きできます。
※「予約かご」:次に予約したい本を最大100冊まで、仮置きできるサービスです。

【新着メール登録】
タイトルや著者など条件をご登録いただくと、最近1週間の間にその条件を満たす資料を初めて図書館で受け入れた場合、水曜日にメールでご連絡するサービスです。※ご利用にはメールアドレスの登録(★)が必要です。

地区センター蔵書検索ページ

横浜市地域情報ポータル

◆推奨ブラウザは、Internet Explorer8、Int

【横浜市地域情報ポータル】
横浜市立図書館だけでなく、他機関が所蔵する資料を横断的に他機関まとめて検索できます。

鶴見大学

広告主募集中

教育委員会事務局中央図書館企画運営課
〒220-8501 横浜市鶴見区鶴見中央1-1-1
TEL:045-661-2111(電話受付時間)
©2013 City of Yokohama. All rights reserved.

横浜市立図書館 蔵書検索 検索



横浜市立図書館蔵書検索ページURL:
<https://opac.lib.city.yokohama.lg.jp/opac/>

6 その他の図書館サービス ～各種コーナーの開設～

中央図書館 各種コーナーの設置

開館から20年の間に、
中央図書館では次のような新しいコーナーを作りました！
～市民の皆様の調査研究・課題解決を支援します～

○初めて出会う絵本コーナー (平成18年開設)・・・1階子どもの本のコーナー

「小さい子どもにどんな絵本を読んであげたらいいかわからない」そんな声を受けて、0歳から3歳までの乳幼児を対象とする絵本を集めたコーナーを設置しました。※このコーナーは全18館で開設しています。

○PCリサーチコーナー (平成11年10月開設)・・・3階一般調査部門

新聞記事検索など、調べものに便利なものを中心に、商用オンラインデータベースが無料で閲覧できます。また、インターネットの閲覧ができるパソコンも設置しています。

○外国語本コーナー (平成19年2月開設)・・・3階一般調査部門

外国で出版された図書や日本の小説・エッセイの翻訳書、地域の生活情報、日本語学習資料などをそろえています。英語、中国語、ドイツ語、フランス語、タイ語等、幅広い言語の本があります。

○ビジネス資料コーナー

(平成6年開設、平成19年3月改装)・・・4階社会科学部門

会社録、業界名簿類を中心としたビジネスコーナーと、統計書、調査報告書、白書等を集めた統計コーナーからなり、一か所でデータ調査が行えるようになっています。

○医療情報コーナー (平成18年12月開設)・・・4階自然科学部門

病気や医療について調べたいときに、最初にアクセスするコーナーとして、基本書や「診療ガイドライン」、「患者会資料」等、科学的根拠に基づいた診断と医療について書かれた資料、病と共に生きるために役立つ資料をそろえています。また、「病名索引」や薬、病気、病院に関する「調査のミカタ(文献、情報の探し方・調べ方の案内)」を作成し、市民の皆様がご自身で必要な情報にたどり着くためのナビゲーション機能の充実をはかっています。

○法情報コーナー (平成20年12月開設)・・・4階社会科学部門

日常生活やビジネスで法情報が必要となった時、弁護士など専門家との相談材料が必要な時など、法情報探索のアクセス拠点として開設しました。様々なテーマの「一般向け法律相談書」や、特定分野の六法、逐条解説、判例解説などの基本書のほか、各種関連機関のパンフレットを配布し、法律相談情報も提供しています。



7 これからの横浜市立図書館

横浜市立図書館アクションプラン

これからの図書館の方向性を示す計画を策定（平成23年策定）

「横浜市立図書館アクションプラン」（以下「アクションプラン」という）は、「横浜市中期4か年計画」及び「横浜市教育振興基本計画」（ともに平成22（2010）年度策定）と連動し、質の高い図書館サービスの提供を図るための行動計画として、平成23（2011）年1月に策定されました。これは平成22（2010）年度から26（2014）年度までの5か年の具体的な取組を17の項目としてあげたものです。これらの達成のため、毎年図書館では「横浜市立図書館の目標」を設定し、年度末にはその達成状況を振り返ってきました。平成25（2013）年度にはそれぞれの具体的な取組の達成状況を検証し、アクションプラン中間振り返りを行いました。これは平成26年度に実施する、次期アクションプラン策定に向けた準備の一つであり、横浜市の図書館サービスの今後の方向性を明らかにするために不可欠な作業です。

図書館や出版を取り巻く状況はアクションプラン策定後も刻々と変化しています。次期アクションプランの策定の際にはそれらの社会的状況を考慮し、また市民から寄せられる要望も参考にしながら、市民が必要とする資料・情報の提供を通じて市民生活を支援する、地域の情報拠点としての役割を果たすための取組を進めていきます。

17の具体的な取組項目

◎印は重点項目です

● 司書の専門性を発揮したサービスの進展	● 効率的で効果的な図書館の管理運営と環境整備
◎蔵書再構成5か年計画の策定・実施 ◎子ども読書活動の支援・学校との連携 ○市民の学習活動・課題解決の支援 ○地域情報の収集・提供の推進 ○地域と連携した読書推進活動の充実 ○多文化サービスの展開 ○市民協働の推進	◎司書人材育成計画の策定と人材育成の推進 ○次期図書館情報システム導入に向けた検討 ○指定管理者による運営状況の検証・評価 ○一部地域図書館の司書補助業務委託の導入 ○地域図書館の管理運営手法の総合的検討 ○自主財源の確保及び経費の節減 ○市民の意見が反映される仕組みづくり ○身近で便利な図書館サービスの充実の検討 ○図書館の設備改修・改善や耐震補強 ○市立図書館における業務内容の見直し

アクションプランを基にした計画

名称	内容
蔵書再構成5か年計画 (平成23年3月策定)	・蔵書の分析と補強 ・新たな収集方法の検討 ・地域情報の収集方法の検討 ・電子書籍などの新しい情報媒体の検討 ・資料管理の課題解決
横浜市立図書館児童サービス5か年計画 (平成23年3月策定)	・子どもの主体的な読書習慣の育成を図る ・家庭、保護者への支援計画 ・学校・施設、教職員・ボランティアへの支援計画
レファレンスサービス向上プログラム (平成23年9月策定)	・市民の自主的な調査研究活動を支援 ・主題別・対象者別の課題解決要求に対応 ・横浜の地域特性を基盤としたレファレンスサービスの推進
図書館の目標 (毎年年度末策定)	全体目標と各課・館の目標を策定・公表し、翌年度に振り返りを実施